

### 3 「いかしてみよう!!研修会・研究会資料」

～埼玉県及び全国学力・学習状況調査「分析・活用・実践」研修会～

～北部地区授業力向上授業研究会～

P.28 ～ P.40



©埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

# 調査結果の分析方法

令和7年6月5日（木） 熊谷地方庁舎（オンライン含）

## (1) 埼玉県学力・学習状況調査の特長

「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という視点に「**児童生徒一人一人の学力がどれだけ伸びているのか**」という視点を加えた子供たちの成長の姿が見える調査（令和7年度で11回目の調査）

## (2) 調査から分かってきたこと



○「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「**学級経営**」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の**学力向上につながる**

非認知能力	学力に代表される認知能力以外の様々な力(各学年2種類)	
自己効力感	自分はそれが実行できるという期待や自信 など	全学年
自制心	イライラしない、心の平静を保てる など	一部の学年
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など	
やりぬく力	粘り強い、根気がある など	
向社会的性	相手の気持ちを考える、親切にする など	
学習方略	子供が学びに向かうときの態度や学習の仕方(全学年5種類)	
柔軟的方略	学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動(例)勉強する順番を変えたり、分からないところを重点的に学習	全学年
プランニング方略	計画的に学習に取り組む活動	
作業方略	ノートに書く、声に出すといった「作業」を中心に学習を進める活動	
認知的方略	より自分の理解度を深めるような学習活動(例)学習内容を自分の言葉で説明してみる	
努力調整方略	「苦手」などの感情をコントロールして学習への意欲を高める活動	

「**学級経営**」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。  
「**学級経営**」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

## (3) 帳票結果の分析・活用について

参照 令和7年7月23日付け事務連絡「令和7年度「埼玉県学力・学習状況調査」における調査結果の分析・活用等について」

【学級担任・教科担任者の帳票結果の分析・活用（例）】

内容	学級の学力の伸びの状況	指導の工夫改善の成果	各教科の実態の把握
帳票の分析例	帳票40 児童生徒一人一人の学力のレベル・伸び・学習方略・非認知能力の数値から気になる児童生徒の把握・分析	帳票04 学校の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票10 児童生徒の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較 帳票04と帳票10 2つを比較することで、教職員と児童生徒の意識の差の分析	帳票09 各教科の領域ごと・設問ごとの正答率、無解答率や難易度を県平均との比較・分析 帳票33 学力を伸ばした児童生徒の割合、学力のレベルの伸びの平均の把握 帳票45 県平均と領域ごと・設問ごとの解答ログの比較
活用例	・気になる児童生徒に対する具体的な手立てと方策の検討	・教職員と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を振り返り、調査結果を授業改善に活用	・既習事項と結び付けた導入の工夫 ・授業改善に向けた具体的な取組の検討
検討者、検討場面例	・担任、学年職員 ・学年会	・校内研修 ・学年会	・教科部会 ・校内研修
参考資料	総合教育センター義務教育指導課研修用サイトを参照	質問調査の活用にあたって	帳票09解説動画

- 学級担任・教科担当用、学校担当者用で、立場に応じた活用方法を例示
- 分析例、活用例、検討者・検討場面例、参考資料を掲載



ぜひ参考に！

【R7 県学調報告書】  
第3章 調査結果の活用

## (4)帳票 40 色分けツールについて

参照 埼玉県立総合教育センター・義務教育指導課研修用資料サイト「県学調活用資料」

### 色分け帳票40

学校保管の出席番号と児童生徒名が自動で反映され、どのデータが誰のものなのか分かりやすく整理される

それぞれの項目の**変化量0を基準として**  
 +0.3より高いものが**緑** -0.3より低いものが**赤**  
 ±1.0以上高いものが**太字**  
 ※クラス平均は±0.3を基準・・・クラス全体として良い方向やそうでない方向に5(もしくは4)段階中1段階程度変わっているというシグナルとしている。

それぞれの項目の**県平均と比較して**  
 +0.3より高いものが**緑** -0.3より低いものが**赤**  
 ±1.0以上高いものが**太字**  
 ※0.3の根拠：各設問の回答が一つでも良い方向やそうでない方向に変容した場合、約0.3の数値の変容があるため



各教科の「学力のレベル」・「36段階に変更した数値」・「昨年度からの伸び」を記載している。  
 ※学力の伸びは「**県平均の伸びと比較して** ±1以上変容しているものに色を付けている。

**色分け帳票40**

クラス集団を基準とした5層分布を色で示している。  
 ※昨年度からの同一集団内での変化に着目し、相対的に伸ばしている子や伸び悩んでいる子を見つける。

クラス集団の**県全体を基準とした5層分布**を色で示している。  
 ※昨年度からの同一集団内での変化に着目し、相対的に伸ばしている子や伸び悩んでいる子を見つける。

### 分析シート一覧

《多面的な視点で分析ができるように分析シートが充実》

① 国語×算数・数学の**学力バランス**の状況を知りたい  
 ① 国語【中間層】目安

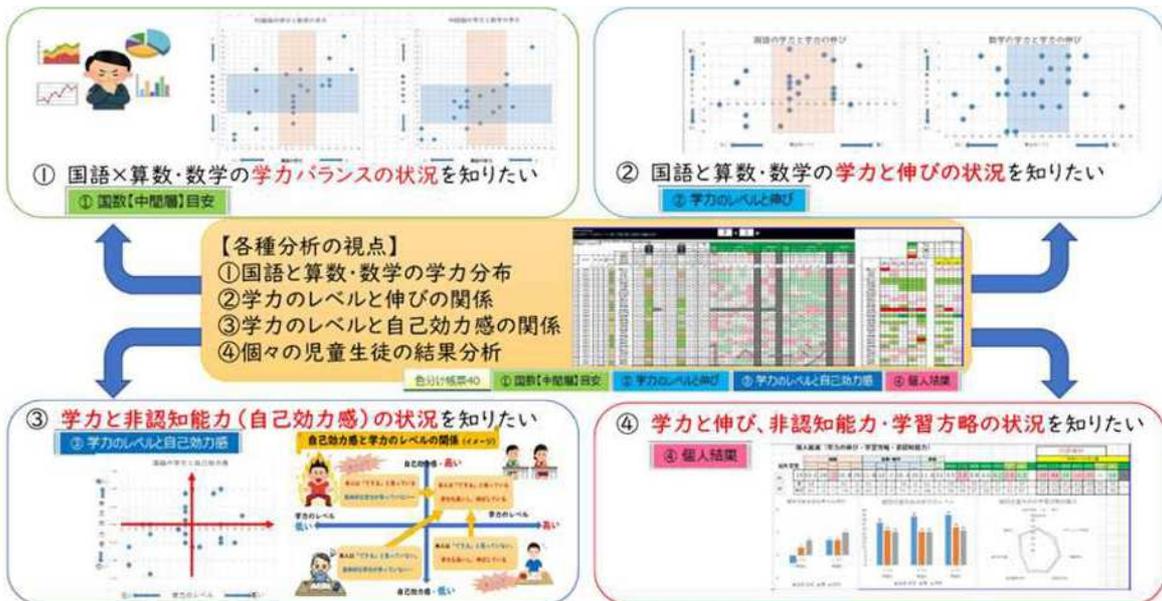
② 国語と算数・数学の**学力と伸び**の状況を知りたい  
 ② 学力のレベルと伸び

【各種分析の視点】

- ①国語と算数・数学の学力分布
- ②学力のレベルと伸びの関係
- ③学力のレベルと自己効力感の関係
- ④個々の児童生徒の結果分析

③ 学力と**非認知能力(自己効力感)**の状況を知りたい  
 ③ 学力のレベルと自己効力感

④ 学力と**伸び、非認知能力・学習方略**の状況を知りたい  
 ④ 個人結果



目的に応じて、各種分析シートを活用！！



©埼玉県 2005

【義務教育指導課研修用資料サイト】

\*色分けツールはダウンロードして御活用ください。



(5) 研修会（令和7年6月5日）の演習にて使用したワークシート

《帳票40の分析から具体的手立てにつなげる》 \*データは演習用仮想学級のもの  
 (別紙1:個人) 帳票40を分析・活用して、授業改善の方策を検討する。

分析する学級のデータ

①学級や生徒の実態、その要因 など

(例)

- 学級の大半が学力を伸ばしている。  
→見届けを確実にしていた。
- 自己効力感の個人差が大きい。  
→発言の機会に偏りがあったのかもしれない。

②指導・支援の手立て

(例)

- 評価場面、方法を明確にした授業を実施する。
- ペアで伝え合うなど、全員の発言機会を設ける。

データから、学級や個人の学習状況を見取り、その要因等について協議する。

実態や要因等に応じた具体的な手立てを検討する。

《埼玉県学力・学習状況調査 個人結果票の返却について》

\* 令和6年度の参考例

個人結果票が出たら、できるだけ早く児童生徒・保護者に返却する。その際、どんな励ましの言葉を添えるかを話し合った。



令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査 個人結果票【中学校1年生】

埼玉県学力・学習状況調査を通して

教科に関する調査結果（2～3ページ）の見方

教科の領域別正答率など

領域別の学習時間分布

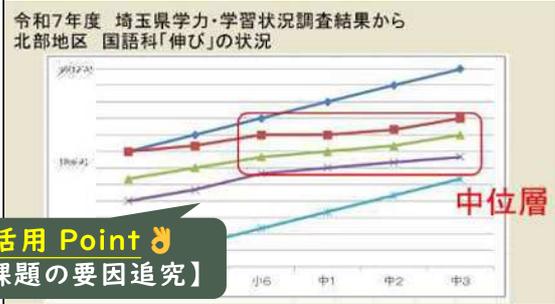
県平均と比べて時間をかけた問題

学習に関するアドバイス

# 小・中学校 国語

令和7年9月9日（火） 寄居町中央公民館

## (1) 北部地区の学力調査から見る現状と課題について（演習1）



### 演習1

「読むこと」において、このような課題があるのはなぜでしょうか？自身や自校の取組を振り返りましょう。

「読むこと」において、正答率の高い問題

- 文の内容として適切なものを選択する問題
- 登場人物の描写を捉える問題
- 登場人物の心情を理解する問題

【個人 5分間】

↓

【ペア 意見交流】

「読むこと」において、正答率の低い問題

- △ 記述式（抜き出す、書き出す）問題
- △ 最も適切なものや要旨に関する問題
- △ 段落の関係や文章構成に関する問題

埼玉県学力・学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果を活用し、「中位層」の学力伸び悩みや、特に課題の見られた「C 読むこと」領域の要因等について分析を深めた。

## (2) 解答類型を基にした誤答分析について（演習2）

全国学力・学習状況調査（小学校）で課題が見られた問題（大問3三(2)）の解答類型分析と授業改善の手立てについて検討した。

### 演習2

令和7年度全国学力・学習状況調査  
小学校 大問3 【読むこと】に関する問題

- 【個人STEP1~4】  
問題文の把握、解答類型の分析（大問3三(2)）
- 【グループSTEP5】  
つまずきの原因や中位層の支援について協議する
- 【解説】  
どんな授業が求められるか
- 【個人STEP6】  
自身の授業改善にどう生かすか考える
- 【グループSTEP7】  
授業改善について

### 演習2

【個人STEP1~4】 問題文の把握、解答類型の分析（大問3三(2)）

STEP1~4 所要時間 15分間

- STEP1 問題文を把握する
- STEP2 大問3三(2)解答類型・無解答の割合を把握する
- STEP3 解答類型（正答）の割合から児童の傾向を見る
- STEP4 解答類型の割合・具体例からつまずきの原因や中位層への支援等を予想する

### 大問3三(2)

5年生及び6年生、思考力、判断力、表現力等(C)の  
どんな授業が求められるのか。

① 言葉の変化に関する複数の説明文を読む活動と、それに基づいて  
組合せ活動を通して、  
例) 説明文の内容に自分の経験に関連付ける力  
・複数の情報を結びつけられる力  
・文章全体の構成、意味を捉える力  
・目的に応じて必要な情報を取捨選択する力  
・立場を明らかにし、集めた材料を整理、再構成してまとめる力  
…他にも多くの力を身に付けられる授業

② 目的に応じて、文章と必要な情報を  
結び付けられるなど、必要な情報を  
集めながら、論理的思考力について  
考えたりすること。

協議の視点

主要な意見について、【資料】から一  
事柄の似たことを引用し、【資料1~4】  
がいずれから、その論議の付いた説  
明文を引用し、考えを述べた。

形の変化

意味の変化

2つの条件がわかれて作文を書く

1つ1つの条件から文章を書く

一審判したことを引用する

### 演習2

【グループ】つまずきの原因や中位層の支援について協議する

STEP5 所要時間 5分間

STEP5 つまずきの原因や中位層の支援について協議する。

協議の視点(例)

- 1 つまずきの原因について、  
・解答類型1を遠く見方が多い理  
由は何か
- 2 解答類型3を確やすめにどう  
したらよいか などなど

1	解答類型1(正答)の割合	10.5%
2	解答類型2(正答)の割合	13.2%
3	解答類型3(正答)の割合	13.7%
4	解答類型4(正答)の割合	13.0%
5	解答類型5(正答)の割合	13.7%
6	無解答	13.7%
7	解答	13.7%

**活用 Point ♪**  
【小中連携】 【中位層の学力向上】

他市町の先生方と協議したり、小中連携の視点で中位層の学力向上のための支援等について分析したりした。

特につまずきの多かった大問3三(2)「複数の文章を読み、必要な情報を抜き出して関連付ける」ための力を、どの教材で、どのように指導すればよいか解決の手立てについて協議を深めた。また、グループ編成を工夫することで、校種や市町の垣根を越えて、児童生徒にどのような力を身に付けていけばよいか協議する機会とすることができた。

### (3) 誤答分析と授業づくりの困り感の共有について（演習3）

全国学力・学習状況調査（中学校）で課題が見られた問題（大問3四）の誤答分析、小中連携に向けた授業改善の手立て、日頃、国語科授業づくり等で困っていることに共有・協議を行った。

**演習3** 令和7年度全国学力・学習状況調査 大問3【読むこと】に関する問題

- 【個人STEP1~4】 問題文の把握、誤答分析（大問3四）
- 【解説】 どんな授業が求められるか
- 【個人STEP5,6】 (1)自身の授業改善について考える (2)小中連携視点で、授業改善に+α、異校種の先生に聞いてみたいこと
- 【グループSTEP7】 授業改善案や困り感・悩みを共有する
- 【個人STEP8】 協議を踏まえ、明日から取り組むことについて考える

**演習3** 【個人STEP1~4】 問題文の把握、誤答分析（大問3四）

STEP1~4 所要時間 15分間

STEP1 問題文を把握する

STEP2 誤答・無解答の割合を把握する

STEP3 解答類型の具体例から生徒の傾向を見る

STEP4 解答類型の割合・具体例からつまずきの原因等を予想する

**活用 Point**  
【教材の比較】

**大問 3四** 問題文

活用 Point 【問題分析】

問題文の分析と解答の傾向を把握するためのポイント

1. 問題文の読み取り

2. 設問の読み取り

3. 解答の作成

4. 誤答の分析

5. 授業改善の検討

**大問 3四** 2つの発行年度で読んでいる文学的文章の、表紙の表紙や構成に留意点を見て理解がしやすい作品の一例。

教育出版	小学館	光村図書	小学館
1年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	1年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	1年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	1年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし
2年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	2年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	2年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	2年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし
3年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	3年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	3年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし	3年生 ・おたけのふし ・おたけのふし ・おたけのふし

小中連携の視点で誤答分析をし、児童生徒のつまずきをなくすために、どのような授業改善をしたらよいか考え、協議した。9年間を見通して児童生徒の資質・能力を身に付ける重要性について再認識する機会とすることができた。特に、大問3四では、「表現の効果」や「作者の意図」について学習していないと解くことが難しい問題であり、小学校1年生から系統的に表現や効果、その意図について考える学習活動を設定する必要があるという意見があった。

### (4) 情報提供について

ア 令和7年度 全国学力・学習状況調査 授業アイデア例



本研修会で扱った問題を児童生徒が解けるようにするために、どのような単元計画にすればよいかの参考となる。

令和7年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例

○単元全体の計画

○必要な情報を集める場面の実際の指導

報告書

令和7年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例

○読者の家、約の話を実際に指導する場面の例

報告書

イ 令和7年度北部地区小・中学校教育課程研究協議会提案資料

○小学校 第2学年  
「生き物クイズで知らせよう」（教育出版）  
児童が選んだ生き物についてクイズを出し合い、感想を伝え合う活動。

R7北部地区小学校教育課程研究協議会 提案資料

教育出版 小学2年上  
「生き物クイズ」で知らせよう  
「生き物クイズ」大会の開催

○中学校 第3学年  
「握手」（光村図書）  
作品理解を深めるために、登場人物の立場で弔辞を書き、相互評価し合う活動。

R7北部地区中学校教育課程研究協議会 提案資料

光村図書 中学3年  
「握手」  
弔辞の文法

個別最適な学び  
協働的な学び

# 小学校 算 数

令和7年10月1日（水） 深谷市岡部公民館

## (1) 学力調査から見る北部地区の現状と課題について（協議1）

【協議1】 分数の理解・計算は概ねできているが、  
数直線の目盛りが表す分数を読むことに課題があるのはなぜか？

小4	1(2) 分数が等しい分数のひき算の計算をする	67.2	0.6	4-A
	2(2) 前項の算題が表す分数を数直線に表す	13.4	0.5	7-A
小5	1(2) 帯分数のひき算の計算をする	61.4	1.7	5-A
	2(2) ある量より小さい分数をすべて表す	42.1	1.0	6-A
小6	1(4) 分数が異なる分数の加法の式で、あてはまる数を書き入れる	48.7	1.8	7-C
	1(5) 分数が異なる分数の加法の式で、あてはまる数を書き入れる	57.7	4.0	6-B
	2(1) 小數と等しい大きさの分数をよび	55.6	1.0	6-A
	2(4) 小數と等しい大きさの分数をよび	40.2	0.6	7-B

【個人】  
↓  
【ペア】

小5	1(1) 帯分数のひき算の計算をする	61.4	1.7	5-A
小6	1(4) 分数が異なる分数の加法の式で、あてはまる数を書き入れる	48.7	1.8	7-C
	1(5) 分数が異なる分数の加法の式で、あてはまる数を書き入れる	57.7	4.0	6-B
	2(1) 小數と等しい大きさの分数をよび	55.6	1.0	6-A
	2(4) 小數と等しい大きさの分数をよび	40.2	0.6	7-B

問題番号	問題	算題の特色	出題の趣旨	北部地区 正答率	埼玉県 正答率	全国 正答率
1(2)	平均の速さ	○	目的に応じて適切なグラフを選択してデータの読み取りを行い、その理由を言葉や図で説明できるように記述できるかがポイント	30.5	29.8	31.0
2(4)	割合	○	基本図解が活用できることのできる図解の活用を求め、その理由を言葉や図で説明できるように記述できるかがポイント	34.0	34.4	37.0
3(2)	算数計算	○	分数の加法について、共通する単位分数を求め、共通する単位分数の和を求め、共通する単位分数の数を求めることがポイント	21.3	22.7	23.0
3(3)	算数の計算	○	数直線上で、1の目盛りを単位とし、分数を数直線の目盛りで表すことができるかがポイント	32.4	35.3	35.0
4(2)	算数の計算	○	与えられた条件から、共通する単位分数を求め、共通する単位分数の和を求め、共通する単位分数の数を求めることがポイント	46.1	48.1	48.7
4(4)	算数の計算	○	「1の目盛り」の単位を単位とし、「共通する単位分数」の共通する単位分数の和を求め、共通する単位分数の数を求めることがポイント	37.1	41.3	40.9

令和7年度の調査結果から

**教師** 算数の授業において「どのように考えたのかについて説明する活動」を意図的に取り入れて授業を進めている。

**児童** 言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題で「最後まで書こうと努力している」児童が多い。

データから明らかになった課題（「分数」に関する問題）と先生方が実際に感じている課題、児童の実態等について意見交流を行った。

質問調査から、教師は児童が説明する活動を意識的に取り入れており、児童は最後まで書こうと努力していることが分かった。しかしながら、記述式は正答率が伸びず、無解答率も高い。どうしたら改善につなげられるのかを課題として進めていった。

## (2) 解答類型を基にした誤答分析について（協議2）

**本日の誤答分析・活用の手順**

- ① 問題と出題の趣旨を把握する。
- ② 反応率や誤答例から、児童の課題を見つける。
- ③ 課題解決のために、必要な指導・学習を考える。
- ④ 自身の授業改善にどう生かすかを考える。

例1:  $\frac{3}{4}$  と  $\frac{2}{3}$  について考えよう。

例2: 出題の趣旨は分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。【思考・判断・表現】

北部地区 22.8%  
全国 23.0%

(正答例)  
・  $\frac{3}{4}$  と  $\frac{2}{3}$  のもとにする数を同じ数にするとき、その数は  $\frac{1}{12}$  になります。 $\frac{3}{4}$  は  $\frac{1}{12}$  の9個分、 $\frac{2}{3}$  は  $\frac{1}{12}$  の8個分です。

**【分析のポイント】**

- 解答類型から誤答の傾向をみる。
- 誤答からつまづきの原因を予想する。
- 誤答とならないようにするには、どうすればよいかを考える。

課題の見られた問題「大問3(2)」の解答類型を分析すると、通分して計算する「計算の処理」自体は理解しているものの、「共通する単位分数は何か」「それぞれの分数がその単位分数のいくつ分にあたるか」という視点が十分に定着していないことが分かった。

6年生でこの問題を解くためには各学年においてどのような力を身に付けさせ、課題解決のためにどのような手立てや支援が必要かを検討した。

### (3) 誤答分析と授業づくりについて (演習・協議3)

**【演習】**  
各学年における授業ナビシート

3つの手立てについて考える。

- どんな学習活動が考えられるか。
- 何に気をつけて指導をすればよいか。
- どんな工夫が考えられるか。

説明することや苦手な児童への個別の支援等があれば記入する。

個人(8分)  
グループ(20分)  
共有(15分)

**【演習・協議3】**

- 全国学調をもとに資質・能力の育成について教材を使って考える。
- 他の学年との交流により、考えを広め深める。

分数における系統表

新しい算数6年  
「分数をかける計算を考えよう」  
「分数でわる計算を考えよう」  
○分数の乗法、除法の意味や計算など  
○分数の値

新しい算数5年  
「分数をくわく減しよう」  
○大きな新しい分数  
○分数の加法・減法(同分母)

新しい算数4年(下)P44  
「分数をくわく減しよう」  
○分数と小数、整数の関係を図べよう  
○分数と整数、小数の関係  
○同じ大きさの分数を比べよう  
○分数のたし算、ひき算を比べよう  
○異分母分数の加法・減法

新しい算数3年(下)P44  
「分数をくわく減しよう」  
○分数の意味と表し方  
○分数の足し算と引き算  
○簡単な分数の加法・減法  
○分数でも数の大きさを比べたり計算したりできること

新しい算数2年(下)P80  
「分け、大きさ、あはれ方をしらべよう」  
○1/2や1/3などの簡単な分数

問3の趣旨である「『統合的・発展的に考察する力』『説明する力』を児童が身に付けるには？」という視点で授業内容を考えた。

後半は、担当学年の異なるメンバーでのグループ協議を行った。協議を通して、発達段階に応じた支援と系統性を踏まえた繋がりのある学習が必要であることが見えてきた。

#### 《授業づくりのヒント(説明すること)》

**授業づくりのヒント**

- ① 説明することについて、まずは子供の言葉で書かせる(苦手な児童は単語でもよい)
- ② 説明をする目的(「どうして整数のたし算になるのか」)に沿って、検討をさせる。
- ③ 最後に**自分の言葉**でまとめる。 図や式をもとに根拠を明確に!

**言葉で説明すること**

自分の説明に足りない部分はないかな?

今まではどのように説明したかな?

この式の意味ってなに?

教師は、児童が説明した後に、図や式を指し示しながら「この式は図でいうとどの部分であるか」「図のここは式で表すとどうなるか」のように、図と式がつながるように問い返す。また、本時の大切なキーワードを児童から引き出したり、図や式から得たことを言葉で説明したりすることにつなげる。

そして、最後は(説明を)児童自身の言葉でまとめさせたい。

### (4) 情報提供について

令和7年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例の紹介

「令和7年度【小学校算数】報告書」  
授業アイデア例

- ・設問の趣旨
- ・解答類型と反応率
- ・分析結果と課題
- ・関係する過去問
- ・本問題全体の学習指導
- ・授業アイデア例
- ・板書例

「令和7年度【小学校算数】報告書」  
大問3 授業アイデア例

[https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukouku/report/data/25pmath\\_idea\\_03.pdf#page=17](https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukouku/report/data/25pmath_idea_03.pdf#page=17)

北部教育事務所 授業振り返りシート

北部教育事務所 学校応援BOOK

北部教育事務所 HP

- 学校応援BOOK  
学校訪問や事務所主催の研修などの事例を基に主体的・対話的で深い学びの実践事例等が掲載されています。
- 授業振り返りシート  
毎時間の授業の振り返りに役立つポイントを3つの視点で整理しました。



### (3) 授業づくりについて (演習)

引き続き課題となっている「児童が問題を見いだす授業づくり」についての演習を行った。個人で導入を考え、グループで話し合いながらよりよい展開案を検討した。全体で共有する際はワールドカフェ形式で交流することで、考えを共有することができた。

**演習**

○本時の問題を児童が見いだせる場面づくりを考えましょう。

- 自己紹介し、提示された2つの単元のうち1つを班で相談して決める。(3分)
- 問題を児童が見いだせる場面案を個人で考える。(5~10分)
- 個人で考えた案を班で共有、練り上げ、班で1つの案を考える。(10~15分)

〈早くまとまったら、もう一つの単元で同様場面づくりを考えてみましょう〉

【演習】本時の問題を児童が見いだせる場面づくりを考えましょう

問題を児童が見いだせる場面案

- イラストや言葉事象を表現してもOK
- 教師と児童の発問計画で表現してもOK
- 場面状況を説明文で表現してもOK

児童に読みかたし「授業→本時の問題」

空気は、どのようにあたたまるのだろうか。

**演習**

【演習】本時の問題を児童が見いだせる場面づくりを考えましょう

問題を児童が見いだせる場面案

例1 (シーリングファンを見せる。)

T: これなんだか知っていますか?

C: 扇風機。

T: シーリングファンといいます。このファンは春夏秋冬のいつ動かすと思いますか?

C: 夏だと思います。

C: いつでも使うと思います。

T: 実は、冬にも使います。なんでだと思いますか?

C: なんてだろう…。

C: あたためたい風を出すためだよ。

T: ファンをまわすと、あたたかくなるのはなぜだろう。

児童に読みかたし「授業→本時の問題」

空気は、どのようにあたたまるのだろうか。

【演習】本時の問題を児童が見いだせる場面づくりを考えましょう

問題を児童が見いだせる場面案

例2

校舎の1階と4階の廊下の温度を計って、各層の温度計を示す(1階の廊下より4階の廊下の温度の方が高い状況を示す)。

T: 廊下はあたためていないのに何でこんな現象がおこるのだろうか?

C: 太陽に近いからだよ。

C: あたためたい空気は上に行くからだよ。

T: そうか、空気は動くのか。あたたまった空気は?

C: 上に行くよ。

T: ほんと?

児童に読みかたし「授業→本時の問題」

空気は、どのようにあたたまるのだろうか。

### 中学校

令和7年度全国学力・学習状況調査の問題別調査結果と、埼玉県学力・学習状況調査の問題別調査結果から、全国や県と同様に「生命領域」が課題であることを確認し、問題の分析を行った。また、その他の結果を踏まえ、科学的に探究する過程が大切であることについて確認した。

令和7年度全国学力・学習状況調査結果から見てきた課題を改善させるために、どのような授業実践していけばよいか授業づくりの演習を行った。

### (1) 問題分析

■中学校理科C B T (共通課題大問1より)

■学習指導要領の領域等の平均正答率 (単位: %)

	全国	埼玉県	北部	全国を100とした際の、北部の割合
A区分				
「分子論」を柱とする領域	51.8	53.2	48.7	94%
「粒子」を柱とする領域	57.1	58.1	55.6	97%
「生命」を柱とする領域	29.8	29.4	24.4	82%
B区分				
「地球」を柱とする領域	36.5	36.9	32.0	88%



正答率が低かった問題〔大問1(2)〕から、見いだした問題から適切な課題を設定することに課題が見られた。

### (2) 授業づくりについて (演習)

**1年：粒子**

(2)身の回りの物質 (ウ)状態変化

【課題】(例) 物質が状態変化するときの温度は、物質によって決まっているのだろうか。

【実験】 エタノールが沸騰する温度

**3年：地球**

(6)地球と宇宙 (ア)天体の動きと地球の自転・公転

【課題】(例) 太陽は、時間とともにどのように動いて見えるのだろうか。

【実験】 太陽の1日の動き

〈参考資料として教科書を使用してください。〉

【演習】 課題の解決から新たな疑問や課題の発見の場面づくりを考えましょう。

本時の課題の解決の場面案

【目 題】 \_\_\_\_\_

【ま ね】 \_\_\_\_\_

○イラストや言葉で表現してもOK

○教師と生徒の会話で表現してもOK

↓

新たな疑問や課題

○次の授業につなげる

問題分析から見た課題を踏まえ、課題の解決から新たな疑問や課題の発見の場面づくりを演習した。課題を設定し、正対するまとめを考え、次の授業につなげる場面づくりをグループで話し合いながらよりよい展開案を検討した。

## 【中学校】技術・家庭（技術分野）

令和7年9月16日（火） 本庄市立本庄南中学校  
 授業提案者 本庄市立本庄南中学校 倉澤 龍司 教諭

### 1 授業のポイント

主体的・対話的で深い学びの実現を踏まえた展開

①主体的な学び 学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

【生活との関連】生活と技術との関わりを一層強く認識したり、自分の生活が家庭や地域社会と深く関わっていることを気付かせたりする学習活動を取り入れている。



→「本庄市の地域の特徴に適した発電方法を考えよう」という学習課題を設定し、自分たちが知っている地域をふまえて発電についての学習を行った。

【社会との関連】題材を通して、生活や社会の中から技術に関わる課題の発見や解決に取り組めるようにしている。



→どの発電にもメリット・デメリットがあることをとらえられるよう資料を提供した。また、地域の特徴をふまえて、どの発電方法がより適切な方法かを考えさせる場面を位置付けた。

②対話的な学び 学び合い等、他者と協働することによって、自己の考えを広げ深めること

【他者との交流】課題を設定する場面で、自分の考えが十分まとまっていない場合には、友達の考えを参考にしたり、助言を求めたりすることができるようにしている。



→生徒の実態をふまえて、より活発に交流できるよう生徒同士で話し合う時間を重視した。他者の考えを聞く時間も多く設定されていたため、生徒は多面的に地域の特徴に適した発電方法を多面的に考えることができた。

【思考の可視化】話し合い活動を通して出てきた意見を分類整理したり、互いの考えを可視化したりすることでうとともに、それぞれの考えを評価・改善できるようにしている。



→デジタルとアナログを使い分けて資料を用意したが、グループ活動時は、あえてアナログ（本庄市の地図をA3印刷）を使うことで、紙面上に互いの考えを可視化できるようにした。

### ③深い学び 見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

【思考の支援】技術によって問題を解決する力や自分なりの新しい考え方や捉え方によって解決策を構想できるようにしている。



→活動を通して、自分なりに適した発電方法についてとらえ、考えを表現することができた。表現する際は一人一台端末を用いて考えたことを容易に表現できるように支援していた。

【振り返り】振り返りの時間を確保し、本時の学習内容の理解の確認ができています。

→クラウド上で振り返りを蓄積していき、学びの軌跡が確認できるようにしている。

## 2 協議(参加者から出た意見)

### 協議題

#### ○生徒同士のやり取りを軸に本時の目標達成に導く手立て

- ・孤立した生徒、何をやったらいいかわからない生徒がいなかった。
- ・グループ協議後に個人で考える思考の流れがよかった。
- ・グループワークが『見える化』されていることがよかった。

#### ○ICT 機器を効果的に使用した授業展開

- ・倍速動画は生徒が集中して視聴していた。
- ・一人一台端末を活用した他者への共有が効果的であった。他の生徒のものが見られることもよかった。



## 3 参加者の感想

- ・小学校にはないですが、生活科、理科、社会、算数が小学校のうちから技術の授業に繋がっているのが大切だと感じました。デジタルワークシートや振り返りシートなど様々な活用方法を拝見したので、自分でも取り組んでみます。
- ・発電のメリットデメリットだけに留まらず、自分の生活(本庄市という身近な場所)に目を向けて、自分事として発電方法を考えることで、発電方法の特徴に応じて設定するなど、理解を深めていました。生活と学習内容をいかにつなげるかという点がとても大切だと感じることができました。
- ・生徒に活発に発言させるためには生徒にどんな情報(資料)を与えるのかがポイントになると考えました。教師がこんな意見が出るだろうという予想を持ってこそ意義のあるグループワークになると思いました。
- ・教師が教え込みすぎない方が、より意見が活発に出るという考えが非常に勉強になりました。正しい知識を伝えなくてはという考えでこれまで教えてしまっていたのですが、知識の部分を後回しにして話し合いを行うことによって、正しさだけに縛られず、率直な意見を多々あげることができるのかなと思いました。

# 【中学校】美術

令和7年12月17日（水） 神川町立神川中学校  
授業提案者 神川町立神川中学校 大沢 弥生 教諭

## 1 授業のポイント

### 主体的・対話的で深い学びの実現を踏まえた展開

#### ①主体的な学び 学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること

【共通事項の確認】 その題材において生徒の思考・判断のよりどころとなる美術科において大事な〔共通事項〕に係る要素を明確に設定し、授業展開を考えている。



→授業の大事な視点となる「色のイメージ」「構図におけるイメージの構築」「書体における造形的な要素」を視覚的に提示し、生徒の創造的活動への支援を行っている。

【社会との関連】 題材を通して、生活や社会における美術の役割や、伝えることの効果に着目させ、自分たちの身近なところに関わっていることへの気づきを促している。



→視覚的な要素により、自分の中にあるイメージを言語化したり、伝えたりすることから、造形的な見方や感じ方の重要性にも気づかせることにつながっている。

#### ②対話的な学び 学び合い等、他者と協働すること等によって、自己の考えを広げ深めること

【他者との交流】 目的を共有し、自分の中のイメージと他者とのイメージを共有することで、より深い学びへとつながっている。どのように表現していけばよいかを話し合うことで、見方を広げ造形活動につなげることができるようにしている。



→協働できるメディアツールを使うことで、友達の考えを素早く共有し、イメージをより広げることができる。また、自分の考えも相手に伝えやすく、なぜそう考えたのかも活発に話しやすくなっている。

【思考の可視化】 ICT の活用により、素早くイメージを固めることができ、修正や変更などもスムーズに行うことができる。また、色や形などの変更も行いやすく、考えることが苦手な生徒への支援も行いやすい。



→イメージを持ちやすいように ICT による支援が工夫されているので、対話から生まれた内容をすぐに比較・改善できるような工夫がある。また、他のグループのイメージもすぐに鑑賞でき、よりよい組み合わせを探究できるようにしている。

**③深い学び** 見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること

【生徒との対話】授業の中での生徒の発言を取り上げて共有したり、問い返しや切り返しをしたりしている。また、他のユニットの作品を見るようにも促すことで、改善策や新しいアイデアを生み出すきっかけを与えている。



→教師が生徒のつぶやきをひろい、さらに問い返しを行いながら生徒の言葉を整理することで、思考の広がりや課題設定の確認などを行うことができた。

【鑑賞・思考の共有】各グループの成果物を共有することで、思考をより深め、新たな気づきを促している。

→自分の思考の変容や自分では発想しなかった友達の意見等を振り返り、次の自身の活動につなげられるようにしている。

## 2 協議（参加者から出た意見）

### 協議題

#### 柱①美術の指導及び鑑賞授業の充実について

- ・創作活動と鑑賞を行き来させる学習活動で、造形的な視点が深まっていた。
- ・制作後の鑑賞だけでなく、導入での鑑賞や中間鑑賞も効果的である。
- ・的確な支援の手立てを、授業のねらいから考え、準備することが大切である。

#### 柱②美術指導を充実させる、ICTを活用した授業実践について

- ・いろいろな作品を参考にしたり、試行して制作できる環境を整備している。
- ・「AIによるアイデア出し」をもとに、イメージをふくらませてから具体的に活動することで、制作の幅が広がる。
- ・作品を毎時間写真で撮り、ポートフォリオとして残すことで、制作の過程をわかりやすくまとめることができる。
- ・ICT環境に市町の違いがあるので、情報交換など横のつながりを大切にしたい。

## 3 参加者の感想

- ・自分の学校のことなど身近なものにふれていて、生活と美術が身近なものだと気づかされました。
- ・他校や他校種の先生方と意見交換をすることで、効果的な資料提示、発問のタイミングや、評価の仕方などを新しく知ることができました。
- ・生徒同士が目的意識のある対話を重ねる姿が印象的な研修となりました。
- ・日々の指導によって造形の要素の理解が定着していることで、学びを深めることができるのだと感じました。
- ・生徒が好む傾向のある造形の要素（図柄・書体・色彩）を念頭に、班でターゲット層を設定し、要素を構成・工夫させることで、生徒同士の対話が深まっていました。